

科目名称 (Course Title)				担当教員(Instructor)	
グローバル特別講義Ⅲ(新興アジア経済論)				小井川 広志	
開講学期 (Semester)	単位数 (Credits)	履修年次 (Requirement)	授業形態 (Class Type)	受講定員の有無 (Maximum Enrollment)	授業公開 (Workshop Class)
前学期	2単位	2年次	講義	無	科目等履修・聴講
授業の概要(Course Description)					
<p>少子高齢化による人口減少、低成長、円高による企業の海外移転など、日本国内の経済を取り巻く現状は厳しい。そのため日本企業は、生産拠点として、市場として、あるいは爆買いのお客様として、アジア地域への依存をますます強めている現状である。本講義の目的は、卒業後に、様々な形でアジアの国々と携わるであろう学生諸君に対しそのための基礎知識を提供し、現実の経済・社会の複雑な動きを解きほぐす論理的な考え方を解きほぐしていくことにある。</p> <p>本講義では、アジア経済発展の特徴を踏まえた上で、日本が他のアジア諸国との相互利益的な関係を構築していくための枠組みを示していきたい。講義の前半では理論的解説を行い、後半では、現地調査の資料・写真なども活用して、理論と実証のバランスを意識した刺激的な内容にしたいと考えている。</p>					
授業の到達目標(Course Objectives)					
<p>成長著しいアジア諸国の現状と課題を理解し、将来国際的に活躍できる教養ある市民としての素養を育成することを旨とする。日本経済新聞のアジア関連の記事に興味を持ち、それを抵抗なく読めるようになる力がつく講義を目標にしたい。</p>					
授業計画(Course Schedule)					
第 1 回	講義概要：アジア研究の課題と対象				
第 2 回	東アジアの経済発展：概観				
第 3 回	直接投資と外国貿易				
第 4 回	為替レートと経済発展				
第 5 回	地域統合と東アジアの経済発展				
第 6 回	「東アジアの奇跡」を読み解く				
第 7 回	開発独裁とアジア型資本主義				
第 8 回	アジア通貨危機とリーマンショック				
第 9 回	日系企業 in Asia：現地調査による実態報告				
第 10 回	NIEs企業とのビジネス：パートナーからライバルへ				
第 11 回	ASEAN企業とのビジネス：Win-Win関係を構築できるか				
第 12 回	中国企業とのビジネス：日本経済は呑み込まれるのか				
第 13 回	アジアビジネスの将来（1）：高成長が続く巨大市場への期待と不安				
第 14 回	アジアビジネスの将来（2）：アジア経済圏の外延的拡大は続くのか				
第 15 回	終章 アジアの中の日本経済：課題と展望				
授業時間外学習(Supplementary Activities)					
<p>講義は、PowerPointを利用してハイスピードで進めていく。 激動するアジアの経済とビジネスについて、議論すべきことがたくさんあるためである。 そのため受講者は、テキストを予習し、講義のスピードに遅れないように留意すること。</p>					

成績評価の方法と基準(Grading)	
評価方法 (割合)	評価基準
授業中のミニテスト (50%) 中間レポート (25%) 最終レポート (25%) (最終テストは行わない。 レポート等で評価する。)	←講義内容の復習を兼ねて、毎回の授業の最後に行う ←講義期間の中間時点で、レポート課題を課す ←講義期間の最後に、講義全般の内容に関するレポート課題を課す 上記3項目の合計点で60点以上を合格とする。最終テストは行わない。なお、授業中に積極的に発言や質問をした学生には、ボーナス点が付与される。
テキスト (Textbook)	【書名】 東アジアの開発経済学 【著者】 大野健一・桜井宏二郎 【出版社】 有斐閣アルマ 【出版年】 1997
参考書・資料等 (Supplementary Reading)	天野倫文他(2015) 新興市場戦略論 (有斐閣) 江夏健一他編(2008) シリーズ 国際ビジネス (中央経済社)
備考 (Other Information)	毎回、講義の最初の10分間を使って、アジア経済に関連する最新の時事的な経済ニュースを、新聞記事を用いて解説する予定である。現実の経済の動きを理解するための一助となろう。
教員との連絡方法 (Contact With Instructor)	講義内容などに関して連絡がある場合には、以下のメールアドレス oimichael<at>cantab.net まで連絡のこと (送信の際には上記<at>を @ に置き換えること)